

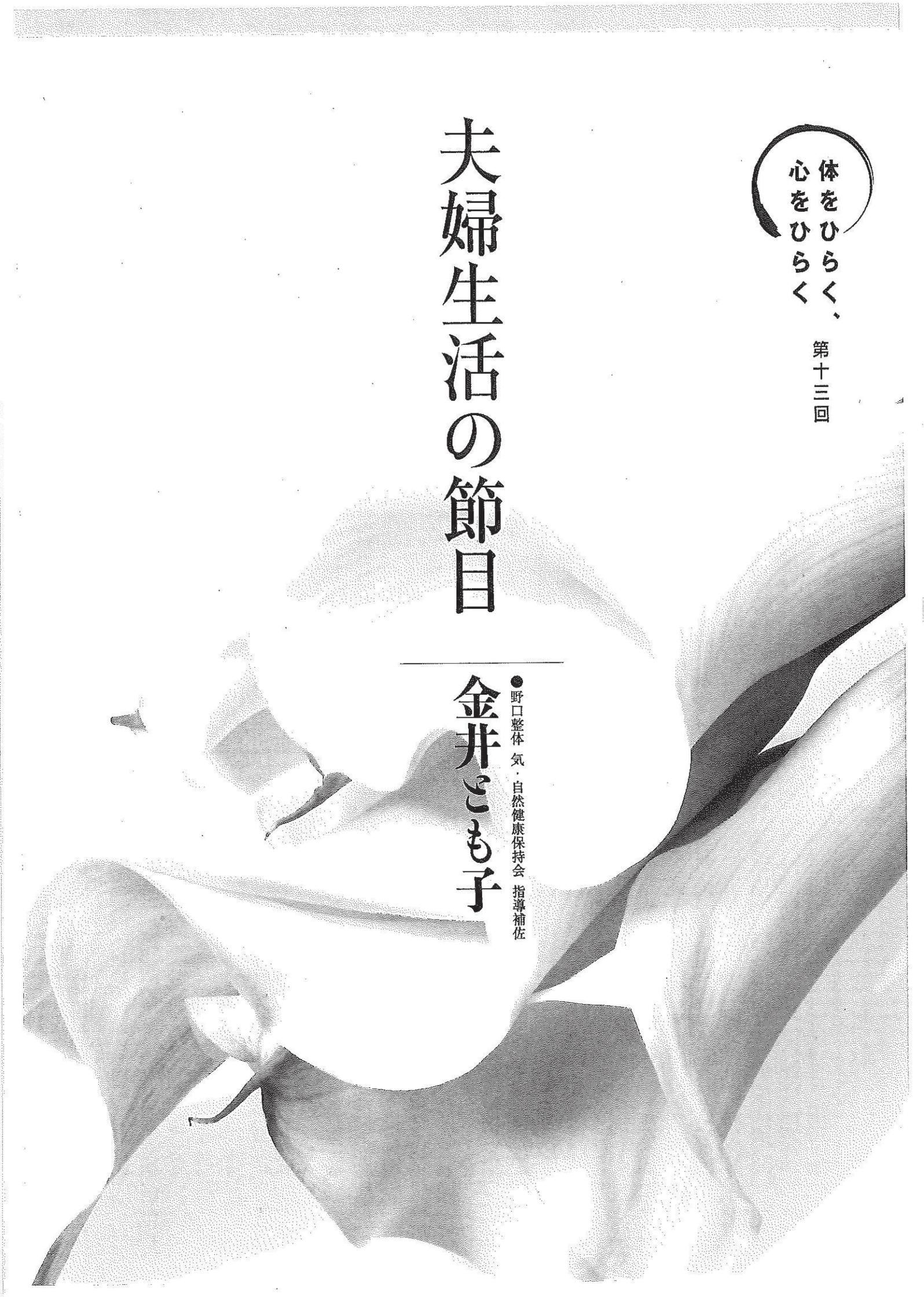
体をひらく、
心をひらく

第十三回

夫婦生活の節目

●野口整体気・自然健康保持会 指導補佐
金井とも子

●野口整体気・自然健康保持会 指導補佐



男と女の感じ方の違い

植物も雄しべ、雌しべがあり命が育まれるように、地球上の多くの生き物は、どちらか片方の性では成り立ちません。

夫婦も男と女で始まりますが、同じ時を共有して生きる結婚生活もまた、「性」の違いによって、個々の気持ちに差が出てきます。それは、男女の身体の違いによって生じるものです。

女性特有の身体の働きを見ていくと、宇宙の自然と同じ働きをしていることが分かってまいります。その働きそのものが母性であると思うのです。

体内には、六〇パーセントの水分がありますが、「人間の体内の水の働きは、月の影響を受ける」と野口晴哉先生はおっしゃっていました。同じ月の影響を受けている身体でも、特に女性は、月経や排卵という身体の変調期があります。女性の身体はそれによって受胎する持久力が生み出されていくのです。そのエネルギーの波で感情は大きく影響を受けます。女性は家庭生活と性を一つに捉えて気持ちを育んでいきます。そして、夫婦の繋がりを基本に、自分の存在をまるごと相手に受け止められることで、自らの安定を図っていきます。ところが男性は、家庭生活と性を別にできるのです。

夫婦生活を長く続けていきますと、そうした男と女の違いが思いの違いついて表れ、気持ちが大きく揺れ動くことに何度か遭遇することでしょう。それは身体的な節目でもあり、精神的に成長する時期でもあります。その時に精神に柱ができてくるか否かで、その後の人生がまったく違ったものとな

ります。男女が暮らしていく長い年月の中で「情」を豊かに使いこなすことで、夫婦として繋がっていくことができるのです。

気持ちが通わない夫婦

これからお話しするご夫婦は、知的で、二人の子供を中心におしゃれに暮らしていました。道場に見えているのは妻のヒデコさんで、「真摯に生きる」を裡に持つ愛情豊かな気質の持ち主ですが、幼い頃から、強い気質の姉の下で自分らしさを発揮できず、姉と自分との違いを感じて生きてきました。そのことも影響し、身体に無意識に固定観念を植え付け、自らに内在する良きものを自由に使えず、気持ちを晴れやかに保った暮らしがなかったようです。

道場に通い始めた頃の彼女は、感情に蓋をして生きていくように、人に距離感を抱かせる雰囲気を持っていました。何かあると閉塞的になり、それがひとつのお行儀の良さにもなり、少々クールな雰囲気が出ていたのです。

そんな彼女も、やがて身体が整い、感覚に広がりが出て、和らいだ「気」が身体より呼び起こされてきました。ところが、母として妻として、もう一度家族を見つめ直すようにしていた矢先に、夫の不倫を見つけてしまったのです。このときからヒデコさんには、妻として悲しく苦しい日々が始まりました。

夫のほうは、家庭環境の影響で気持ちに閉塞感を持ちながら育ち、ヒデコさんとの関係も、本心で気持ちの通い合いが

なされてはいませんでした。彼は彼なりにエリートの道を行ってききましたが、自らの心体の未熟さに気付くことなく、したがって心の不安定さを他に求めて依存し、不倫によって男を再確認していききました。そして、「彼女は、僕を受け入れてくれた。男として認めてくれた。僕の彼女への気持ちは純粹なものだ」と、自らの行為を妻の前で正当化していくのでした。

「夫は十五、六歳の少年が恋をしているように幼く、そこに男の卑怯ひきょうさを感じます。夫から見た私の足りない部分を言葉にしなから、自分の精神の弱さをさらけ出しています」と、ヒデコさんは言います。

彼は「純粹」を勘違いしています。真の純粹とは、自分の気持ちをまっすぐに使い、相手の気持ちに対して妙な勘ぐりなく受け取り、「情」を一途に使っていくということです。相手が傷つくことを平気として、自分を正当化するのには男として幼いというべきです。

心も体も大人になりきれしていない彼は、不倫相手が「自分を受け入れてくれた」と勘違いし、浮気の残り香を家庭に持ち帰っていました。彼女はその何とも乱れた「気」が嫌だったと語っています。それでいて夫は、妻や家族に対して正論を言う。このようなことは女には通りません。

不倫を機に関係を修復

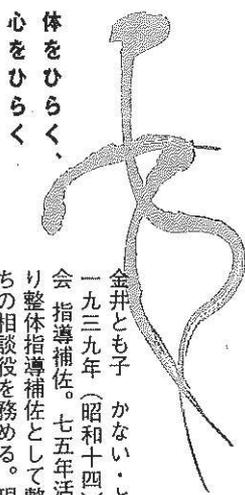
夫婦として気持ちの通い合いが生まれるはずの年齢に、気持ちのズレができてしまったヒデコさん夫婦ですが、夫婦と

いうものは、たとえそこに大きな負荷が生じてても、弾力のよい身体を保持していれば、心体共に静けさを保って、自分の本分に根ざして収めていきます。

ヒデコさんは身体を整えることで内なる要求に気づき、それを生活の中で実践していききましたが、一方の夫は、男の身体を育てるべき時に他に依存してしまい、不安定を抱えてしまいました。

このようなことは、どんな夫婦でも経験する時期があるものです。夫の不倫によって気持ちを固く閉ざしたまま夫婦生活を継続し、自ら病を得ることで相手を責めてみたり、歳を重ねても気持ちの気張りが抜けず、何につけても「自我」を修めて生きられない人たちを、私は数多あまた見たり聴いたりしてきました。自分の情を中道にして使っていくことができないと、だんだんと頑かたなになり、自ら苦しみを招いてしまうので

す。何度も離婚を考えてきたヒデコさんでしたが、身体を整えることで、自分自身と家族を大切にしながら、暮らしを立て直しつつあります。次回は彼女がどのようなようにして、気持ちを修めていったかをお話しします。



体をひらく、
心をひらく

金井とも子 かない・ともこ
一九三九年（昭和十四）生。野口整体気・自然健康保持
会指導補佐。七五年活元コンサルタント取得。九一年より
整体指導補佐として整体指導を求めて道場に訪れる人た
ちの相談役を務める。現在は活元指導の会も行っている。
ホームページ <http://www.ne.jp/asahi/ki/shizenky>